

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0174100990), 法人名 ((株)ピッチ&パッチ), 事業所名 (グループホームよいしょ!春採-1), 所在地 (釧路市春採1丁目14番6号), 自己評価作成日 (平成28年1月8日), 評価結果市町村受理日 (平成28年3月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

眼下に春採湖を望み、四季折々の自然を楽しむことのできる景観豊かな環境に立地しています。利用者様お一人お一人が安らぎを持って生活でき、もう一つの我が家として、安全に安心して生活できますよう支援しています。笑顔や喜びのある生活が提供できますよう、それぞれの趣味や身体機能に合わせ、園芸や散歩、カラオケなどのアクティビティにも努めています。季節感を感じて頂いたり、外気浴や気分転換のためドライブ・ショッピング・外食などの外出支援を積極的に行っています。又、敷地内ではヤギを飼育し、餌やりにも外へ出たり、窓から眺め刺激や癒しになっています。地域との交流も深く、季節の行事を企画し皆さんに来て頂いたり、地域の行事に参加させて頂くなど地域に根差したホームです。ご利用者様の居室やフロアはアロマオイルを使い、香りによって心身を健康に過ごして頂けまよう、癒しの空間づくりをしています。家庭的な雰囲気を感じて頂くために、スタッフの衣服はユニフォームを着用せず、私服にしています。又、外出時に乗車して頂く車も社名を入れていません。常にホームの生活は、家庭生活の延長線にある事を意識して支援に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2015\_022\_kani=tr ue&JigvsvoCd=0174100990-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成28年1月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームよいしょ!春採りは開設から10年を迎える事業所である。母体である法人は身体障がい者支援事業を多く展開しており、障がい者福祉で培った支援の経験や、自分の意志を表現できない場合でも安心して笑顔で過ごすことができる生活の場を提供している。職員も介護保険事業だけではなく他サービスの経験や年齢層の厚みもあり、利用者の多様なニーズに対応している。法人として職員が意欲をもって働ける環境作りに取り組んでおり、資格取得や研修費用の負担など、職員が利用者支援に能力を発揮できるようにしている。湖を望む高台に位置する事業所は、地域住民にも支えられボランティアの申し出を受け、利用者の楽しみにつなげるなど、日常の楽しみを職員、家族、地域住民などで共有できるよう取り組んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果 -1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日も一日楽しく有意義に過ごす」の理念を踏まえ、笑顔で利用者様に接し、安心・安全で、ホームが我が家のように居心地良く感じられるよう心掛けています。	職員の入職時オリエンテーションで法人の理念を説明している。玄関に理念を掲示し、職員が出勤時にプライベートと仕事の切り替えができるようにしている。笑顔と挨拶の大切さを日常的に伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様は地域の盆踊りやバーベキューに参加したり、スタッフは町内会の集会や草取りなどに参加しています。又、地域の方がホームのお祭り・春採湖散歩・避難訓練にボランティアとして参加して下さっています。地域の保育園とも交流があり、敬老会に来て頂いたり、こちらからも保育園の行事に参加しています。	町内会の清掃活動や草取りに参加している。事業所に隣接する障害者デイサービスの利用者や子供たちとの交流もあり、事業所で飼育する山羊の世話をしてもらうなど協力関係がある。地域から散策の際の介助ボランティアの申し出があるなど、地域の中で認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、行事のボランティアをお願いしたり、避難訓練に参加して頂き、利用者様と接する時間を多く持つことで認知症の理解を深めてもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の様子や取り組みを報告し、地域の方や家族の率直な意見を参考にさせて頂いています。又、事故報告も随時行い、次に活かすよう努めています。	運営推進会議は定期的開催し、事業所の様子を伝え、利用者の生活の楽しみとなるようなボランティアの提案を受けるなど、活発な意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事や運営推進会議に参加して頂き、ホームの状況を把握して頂けるよう努めています。ケアの相談にものってもらい、協力して頂いています。	事業所の利用者の相談などの他にも、地域の独居高齢者の課題等について地域包括支援センターから情報提供を受け、協力を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束については、スタッフ間でベッド柵の確認等の話し合いを行い、身体拘束のないケアを行っています。玄関の施錠は高い位置にタッチパネルを設置しています。玄関まで利用者様が来られた時は、職員と一緒に散歩など外に出ています。	身体拘束をしないケアについての資料を職員に回覧し、ベッド柵や言葉による拘束などについて注意を促している。日々の支援の中で拘束に当たるケアがないかを検討している。	身体拘束についての周知は資料を回覧する自己学習となっており、今年度は研修を実施していない。職員の身体拘束に関する理解に温度差が生じないように、全員で取り組んでいくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は利用者様の体に異変があった場合は、生活記録に記載し、管理者、看護師、職員全体が情報を共有し、原因を明確にしています。また、特にスピーチロックについて、フロア内で全員がプレゼンを行い、声掛けに注意しています。社内研修も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用している利用者様が有り、後見の方と連絡を取りながらケアをしています。多様化している現状に対応できるよう今後制度について熟知し、より良い支援に繋げて行きたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、管理者が利用者様とご家族に十分な説明を行っています。また、退去時においても安心して退去できるよう支援しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来設された時には、時間を作り利用者様の様子を伝え、御家族からは、意見や要望を伺っています。利用者様からは、会話や表情の中から思いを受け止め、反映できるよう心掛けています。	利用者ごとに写真と担当職員が毎月直筆の手紙を家族に送付している。外出に関する希望や具体的にやりたい場所なども叶えられるよう職員が検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議で、職員の意見、要望を聞き反映するよう努めています。業務中に意見・提案を聞く事はありますが、ゆっくり時間を設けて1対1での機会はありませんでした。今後、職員の面談を行う予定です。	毎月事業所全体で会議を行い、そのあとにユニットごとの会議を行っている。職員休憩室が別棟に設けられており、職場と離れたところでも職員の意見を聴取することができる。計画作成者や管理者が職員と個別に面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を把握し、働きやすい時間の勤務を可能にしています。又、休憩室はゆっくり休めるようマッサージ機が設置され、くつろげる環境が整っています。資格手当・昇給やボーナスの支給が有り、有休の取得にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回の社内研修や資格取得にも積極的です。資格取得に向け勤務環境を整えたり、費用面でも援助が有ります。管理者研修や、個々の資質向上に向け、積極的に研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交流はあまりないので、今後は機会を設け交流したいと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居時の面談で、ご本人・御家族より現在の生活の様子を伺い、スタッフミーティングを行い今の状況を確認し、その人らしく生活できるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様と面談し、不安な事、求めていること、困っている事を伺い、ケアに活かし御家族との信頼関係を築いています。御家族の言葉を真摯に受け止め安心できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、看護師、ケアマネが対応し、ホームの中でどんな支援が必要なのかを考え、ケアプランを作成し、職員全体で共有し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、調理の手伝い、盛り付けなど本人のできる事や、したい事を職員と一緒に会話を楽しみながら行い、良い関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問を大切に、利用料の支払いは振り込みで限定せずお持ち頂き、その際に利用者様の様子を伝えています。病院受診の際も経過を報告し、一緒に支える関係を築いています。月初めには、写真、担当職員からのお手紙を送付し、ご本人の様子を詳しくお知らせしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の思い出の場所にドライブに出かけるなど利用者様の思いを大切にしています。友人・御家族の来設を大切に、外部の方の訪問しやすい環境作り心掛け、馴染みの関係が長く保てるよう支援しています。	家族や親戚の来訪時には利用者と一緒に写真を撮影し、利用者の居室に貼ることで、楽しい時間を思い出してもらえるようにしている。利用者の教会等のお参りなどから、聖歌隊のボランティアの来訪につながるなど関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り調理や片付け等のお手伝いを一緒にして頂いたり、買い物・ドライブ等の外出を通じて、自然に支え合う関わりができるよう努めています。また歌やレクリエーションを通して楽しみを共有できるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入院や転所された方の訪問をするなど、本人や家族の心のケアを大切に、相談があった時は支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、どのような思いで生活されているのか、どのような事を希望しているのか等の把握に努め、その人らしい生活ができるよう支援しています。	利用者ごとの担当職員が決まっており、利用者の様子や気持ちを把握し、気づきシートや職員間の連絡ノートで共有している。また家族への手紙も担当職員が送付している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートにて生活歴や生活環境についての把握をしています。又、御家族や利用者様の会話からも情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりに声掛けをし、表情や体調の観察をし、散歩、ドライブ、リハビリ、お手伝い等を行って頂いています。一日の過ごし方の様子を記録に残し、変化があればスタッフ間で情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議を行い、スタッフ・ケアマネ・ナースで利用者様のモニタリングを行いその人らしく生活できるよう介護計画を作成しています。又、御家族に意見要望を伺い介護計画に反映しています。	介護計画は担当職員が作成し、利用者がここでどんな生活をしたいかを計画作成者と話し合っている。モニタリングも職員が実施し、変化がない場合でも6カ月おきに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・生活記録の他に、生活にいつもと違う様子があれば気づきシートに記入し、スタッフ間で情報を共有し、介護の見直しをしたり、介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が希望する買い物や通院介助はスタッフが同行し、御本人や御家族のニーズに対応しています。ドライブに出かけた際はティータイムを楽しんでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事(盆踊り・バーベキュー)に参加しています。又ホームの避難訓練・夏まつりには地域の方に呼びかけ手伝って頂き、地域とホーム全体での交流ができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医、又は本人御家族の希望したかかりつけ医に診て頂いています。常に御家族と連携を取りながら、適切な医療が受けられるよう支援しています。	ご家族が通院に同行可能な時は付き添って頂いているが、車いす利用者などには送迎の支援を行っている。また、事業所の非常勤看護師が通院に同行し、医師へ病状を伝え事業所での健康管理にも情報を活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の体調や様子を看護師に伝え指示、助言を受けながら介護しています。怪我、発熱の時など看護師の指示の下、病院に受診しています。夜間帯の緊急の場合も電話連絡し、指示を受けています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が交代でお見舞いに行き、少しでも安心して頂けるよう心がけています。又、病院の看護師等からは、入院時・退院時・退院後の生活について情報を収集しています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・御家族・職員と今後についての話し合いの場を持ち、御本人・御家族の希望に添えるよう努めています。ホーム内でもスタッフ間で情報共有をし支援しています。	医師より看取りの時期となるとの診断を受けて家族の意向を再確認している。事業所のある地域では往診医の確保が難しいが、現在まで3人の看取りを行っている。家族の協力も得ながら希望に沿って行くことになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用の仕方、人口呼吸の実技講習等の受講者はいますが全体での訓練は行っていません。今後必要と思われます。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を実施し、緊急時の職員連絡網の確認、避難方法の確認をしています。地域の方にも参加をお願いし、緊急連絡網の中に入って頂き、協力して頂いています。夜間帯を設定しての訓練も行っています。	避難訓練は年3回、昼・夜想定で実施している。火災の他にも停電に備えた備蓄も行い、バッテリーも準備している。運営推進会議でも事業所の避難訓練の様子を伝え、協力を呼び掛けている。	避難訓練に取り組み、職員の招集訓練も行っている。しかし住民や隣接する福祉施設との連携は今後の課題となっている。非常時の近隣との協力を促進していくことが期待される。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックの勉強会を行い、一人ひとりの人格の尊重に心掛けています。人生の先輩として常に尊敬の気持ちを持ち、対応させて頂いています。	認知症の理解と共に利用者への対応に配慮し、利用者だけでなく一緒に生活する他の利用者も気持ちよく過ごせる対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の時間を持ち、さりげなく趣味や好きな事を聞いたり、今の思いや希望を伺い、生活に生かせるよう支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、消灯時間を決めず、その方の体調やペースに合わせて生活して頂いています。外出、散歩、入浴などできるだけ、利用者様の希望に沿って支援しています。利用者様の趣味や生活歴から、菜園で野菜作りもしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洋服はできるだけ自分で選んで頂き、職員と一緒に身支度をしています。外出・行事の時はお化粧、髪型を整え、おしゃれを楽しんで頂いています。ホームへ理容師さんに来て頂いてますが、希望の美容室への外出支援もしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に買い物に行き食材を選んで頂いたり、旬の食材(山菜、魚、果物)を使用し、調理、食事、片付けをしています。利用者様と一緒に行うことで季節感や話題にもつながっています。昼食・夕食前に嚥下体操をし安全に美味しく食事できるよう支援しています。	献立は職員がたて、利用者と一緒に買い物をしたり食べたいものなどの希望を取り入れた食事を提供している。職員と一緒に食卓を囲み和やかな雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、持病、嚥下状況、体重を考慮し、食事量、形状(キザミ食、お粥)を個々の利用者様に合わせ提供しています。水分摂取量の少ない方には小まめに勧めたり、咽のある方にはトロミを付け提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回声掛けをし、口腔ケアの支援をしています。就寝時は、入れ歯洗浄剤を使用し、常に口腔内の清潔に配慮しています。歯ブラシ・コップは週に一度洗浄しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できるよう時間をみて誘導をしたり、日常生活を観察しトイレサインを感じとり、誘導をしています。夜間の排泄負担や失禁を軽減するため、夜間のみポータブルトイレを使用されている方もあります。	利用者の排泄リズムを把握しトイレ誘導を行っている。利用者ごとの薬の影響や体調に合わせて支援を検討している。プライドを傷つけないようにリハパンやパッド、ポータブルトイレを活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時や空腹時に、水、牛乳、野菜ジュースなど好みの物を飲んで頂いています。食事は、食物繊維の多い食材に気を配り、昼食時には自家製ヨーグルトを提供しています。又、体を動かす機会作り、テレビ体操を毎日行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう準備しています。くつろいだ雰囲気の中で入浴できるよう楽しい会話をしながら、間隔を空けることなく入浴して頂いています。入浴できない時には、シャワー浴で対応し、気持ち良く生活できるよう支援しています。	利用者の入浴の回数や好みの入浴剤、同性介助の希望などに応じている。湯船に浸かってリラックスすることを大切にしており、銭湯に出かけたり、必要な場合は隣接するデイサービスの機械浴も利用することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めず、個々のペースに合わせて休んで頂いています。日中は運動やレクリエーションを行い生活リズムを整え、できるだけ夜間ゆっくり休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬ファイルを作り用法、用量を把握しています。毎日の服薬確認表で氏名、日付け、朝昼夜、を確認し飲み終えるまで見守りしています。症状に変化があった時には、看護師に伝えていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、盛り付け、食器拭き、掃除、洗濯など利用者様に合わせたお手伝いをお願いし、感謝の気持ちを伝え満足感が持てるよう支援しています。また、歌やパズル、かるたをしたり、散歩やドライブに出かけ気分転換できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く暖かい日は外出に心掛け、ドライブや散歩に出かけ外気浴をしています。普段から利用者様の行きたい場所を聞いて、できるだけ行けるよう支援しています。少人数で釣りに行ったり、町内会の協力で春採湖散歩にも出かけています。	事業所は湖を望む自然豊かな高台にあり、遊歩道での散歩や敷地内で飼育する山羊を見に行くなど、日常的な外出を行っている。以前から付き合いのある集まりの新年会に参加する利用者もおり、家族と共に外出の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と相談し、ホームでお預かりしています。希望に応じ買い物に出かけ、お金が使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を受け入れ、御家族に電話をしたり、連絡があった時は、取り次ぎをしています。御家族への年賀状作成の支援もしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器の音、調理場の水音、声、職員の足音、ドアの開閉など、不快な音が出ないように気を付けています。温度、湿度にも気を配り、風邪の予防にも努めています。フロアには行事や日常生活の写真、季節感のある飾り付けを工夫し、利用者様や御家族の方にも見て楽しんで頂いています。また、居室・フロアはアロマオイルを使用し、気分が落ち着き心地良い空間づくりをしています。	共用空間は床暖房となっており、室内が温かく保たれている。暖炉風レンガ造りのストーブ設置場所があり、温かさが感じられるようになっている。利用者の身体状況に合せた工夫を行っており、加齢などによって車いすを利用するようになった場合にも自分でできることを継続できるよう設備の工夫が随所になされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、ソファの配置を工夫し、好きな場所に座りゆっくり過ごせるようにしています。新聞やテレビを見たり職員と一緒に歌・レクリエーション等も楽しんで頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の馴染みの物、本人が使い慣れた物を配置し、御家族様の写真を貼るなど落ち着いて過ごせるようにしています。又、利用者様に合わせて、花やぬいぐるみを置き安心して過ごせる空間作りをしています。	利用者は、居室に入居前から愛着のある思い出の品や家具を持ち込んでいる。仏壇などはお水を上げるなどの習慣を継続できるよう支援を行っている。窓からは高台の見晴らしの良い景色を望むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、車椅子での移動ができるようになっています。玄関、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されています。トイレの場所は、分かりやすいように大きく表示しています。利用者様に合わせた居室の飾り付けや、表札も本人に自室と認識しやすいよう工夫しています。		